



# 碧の風

千葉市立川戸中学校

校報 第1号

令和4年5月13日

## 中学生にとっての行事とは

板垣 章子

大型連休が終わり、日常が学校に戻ってきました。4月から新しい環境で緊張し続けていた1年生も、連休中に一息つくことができたのではないではないかと思えます。

現在、生徒たちは5月20日（金）の体育祭に向けて、準備や練習に励んでいます。特に連休明けの週からは本格的な練習期間がスタートし、ほぼ毎日のように学年練習や全校練習が行われています。練習計画に沿って実行委員がリーダーシップをとり、「整列」、「本時の予定の説明」、「実際の学習（練習など）」、「反省と次回の予定」といった流れで進めています。中学校の行事は、本番もさることながら、そこに至るまでの時間がとても大切です。誰かが用意してくれたイベントに参加するだけの楽しさとは異なり、行事に向けて自分が何をするか、どんな役割を担うか、どんな言葉を発するか、どう振舞うか、一人一人が考え、動き、感じ取っていくことに、学校で行う行事の価値があるといえるでしょう。係の生徒が一生懸命書いた「種目説明用紙」一つをとってみても、思いや苦勞がしのべれます。そしてこのような小さな努力の連続が経験として積み重なり、大きな成長につながっていきます。

体育祭が終わるとすぐに生徒総会、そして3年生は信州への修学旅行と続きます。5月の生徒たちは、それらの準備を上手に並行させながら、いそがしくも活気あふれる日々を過ごしています。

折しも現在本校では、2名の教育実習生が3週間の予定で着任し、奮闘しております。川戸中の卒業生である彼女たちは、中学校時代の行事をよく覚えています。体育祭の大縄跳びで頑張ったこと、合唱コンクールで隣のクラスにライバル心を燃やしたこと、話し出すと止まらないほど懐かしそうに語ります。それは、行事に本気で取り組んだからこそよみがえる、まぶしい思い出なのでしょう。

薫風の中、今年も一つ一つの行事がコロナに邪魔されることなく実施でき、生徒たちの熱い思いが実を結ぶことを願わずにはられません。